

NetCOBOL V10.3.0



リリース情報

Windows(64)

B1WD-2943-02Z0(00)
2012年1月

まえがき

本書は、NetCOBOLのリリース情報について説明します。



NetCOBOLシリーズの最新情報は、富士通のサイト「富士通ソフトウェア情報」<<http://software.fujitsu.com/jp/>>にある「NetCOBOLシリーズ」<<http://software.fujitsu.com/jp/cobol/index.html>>で公開しています。ご参照ください。

製品の呼び名について

本書に記載されている製品の名称を、以下のように略して表記します。

正式名称	略称
Windows(R) 7 Home Premium Windows(R) 7 Professional Windows(R) 7 Enterprise Windows(R) 7 Ultimate	Windows 7
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)	Windows Server 2008
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 R2 x64 Edition
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 x64 Edition

- 次の製品すべてを指す場合は、「Windows」と表記しています。
 - Windows 7
 - Windows Server 2008 R2
 - Windows Server 2008
 - Windows Server 2003 R2 x64 Edition
 - Windows Server 2003 x64 Edition

本書の目的

本書は、旧版からの機能追加、障害修正、およびそれらに伴う互換に関する情報を説明しています。

旧版を使用していたお客さまが、より円滑に本製品に移行できることを目的としています。

本書の対象読者

旧製品を導入されており、本製品への移行を検討されている方、あるいは移行中の方を対象としています。

本書の位置づけ

本書は、機能追加、障害修正、およびそれらに伴う互換に関する情報を説明していますが、断片的な情報ですので、全体像、あるいは詳細な情報はそれぞれのプログラムのマニュアルを参照してください。

関連マニュアル

この製品および関連製品のマニュアルには、本書の他に以下のマニュアルがあります。

以下のマニュアルの名前は、製品名(プログラム名)、製品(プログラム)世代とマニュアル名の3つを組み合わせて記載しています。本書の中で下記のマニュアル名を記載する場合、世代が省略されることがあります。また、製品名(プログラム名)が明らかな場合は製品名(プログラム名)も省略されることがあります。

- NetCOBOL V10.3 COBOL文法書
- NetCOBOL V10.3 使用手引書
- NetCOBOL V10.3 NetCOBOL Studio 使用手引書
- NetCOBOL V10.2 COBOL ファイルアクセスルーチン使用手引書
- NetCOBOL V10.3 メッセージ説明書
- NetCOBOL V10.3 例題プログラム
- MeFt V10.0 ユーザーズガイド
- MeFt V10.0 メッセージ集
- MeFt/Web V10.3 説明書
- FORM V10.0 説明書
- FORM V10.0 補足説明書
- Jアダプタクラスジェネレータ V10.3 使用手引書
- SIMPLIA/TF-LINDAオンラインマニュアル
- SIMPLIA/TF-MDPORTオンラインマニュアル
- PowerSORT V6.0 ユーザーズガイド

登録商標について

- Microsoft, Windows, Windows NT, Windows Server, Windows Vista, Excelは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ActiveXは、米国Microsoft Corporationの商標です。
- UNIXは、X/Openカンパニーリミテッドが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- HP, HP-UXは、米国Hewlett-Packard Companyの商標です。
- Micro Focusは、Micro Focus International Limited.の登録商標です。
- Pervasive, Pervasive Software, Pervasive SQL, Btrieve, Pervasive Softwareロゴは、米国Pervasive Software,Inc.の米国および他の国における商標または登録商標です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- Intel, Itaniumは、Intel Corporationの登録商標です。

- ・ その他の会社名または製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または提供する場合は、外国為替および外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとり下さい。

お願い

- ・ 本書を無断で他に転載しないようお願いします。
- ・ 本書は予告なしに変更されることがあります。

2012年1月

Copyright 2009-2012 FUJITSU LIMITED

目次

第1章 追加機能の概要.....	1
1.1 NetCOBOL.....	1
1.1.1 NetCOBOL V10の追加機能概要.....	1
1.2 MeFt.....	4
1.3 SIMPLIA/COBOL支援キット.....	4
1.3.1 TF-MDPORT.....	4
1.3.2 TF-LINDA.....	5
1.4 PowerSORT.....	5
1.5 Jアダプタクラスジェネレータ.....	6
1.6 FORM.....	6
1.7 MeFt/Web.....	6
第2章 互換に関する情報.....	7
2.1 NetCOBOL開発環境.....	7
2.1.1 SQLCODE、SQLMSGおよびSQLERRDの定義場所.....	7
2.1.2 規定外の外部10進項目同士の加減算の演算結果について.....	7
2.1.3 障害修正に関する互換情報について.....	8
2.2 NetCOBOL運用環境.....	10
2.2.1 障害修正に関する互換情報について.....	10
2.3 MeFt.....	11
2.3.1 移行時の注意事項.....	11
2.3.2 制限事項.....	12
2.3.3 障害修正に関する互換情報について.....	13
2.4 SIMPLIA/COBOL支援キット.....	14
2.5 PowerSORT.....	14
2.6 Jアダプタクラスジェネレータ.....	14
2.7 FORM.....	15
2.8 MeFt/Web.....	15
第3章 プログラム修正一覧.....	16
3.1 NetCOBOL開発環境.....	16
3.2 NetCOBOL運用環境.....	18
3.3 MeFt.....	20
3.4 SIMPLIA/COBOL支援キット.....	21
3.5 PowerSORT.....	21
3.6 Jアダプタクラスジェネレータ.....	21
3.7 FORM.....	21
3.8 MeFt/Web.....	21

第1章 追加機能の概要

ここでは、本バージョン・レベルで追加された機能の概要と内容を説明します。

1.1 NetCOBOL

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Base Edition サーバ運用パッケージ

1.1.1 NetCOBOL V10の追加機能概要

表1.1 NetCOBOL V10の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V10.3.0	Migration CJC for INTARFRM 連携機能	既存のCOBOL資産から高い互換性を維持したまま、Javaと連携したインターネット対応システムを構築できるようになりました。	Migration CJC for INTARFRM 連携機能運用ガイド
2	V10.3.0	ファイルサイズの拡張	順・索引ファイルのサイズ制限(順ファイルは1GB、索引ファイルは1.7GB)を解除し、システムの制限まで作成できるようになりました。	NetCOBOL使用手引書 • 6.9 他のファイルシステムの使用方法 • 5.4.1.22 @CBR_FILE_LFS_ACCESS(COBOLファイルのサイズを拡張する指定)
3	V10.3.0	MeFt/Web	表示ファイル機能で、MeFt/Webと連携できるようになりました。	NetCOBOL使用手引書 • 第23章画面を使った入出力 MeFt/Web説明書
4	V10.3.0	NetCOBOL Studio (Eclipse 3.4基盤)	NetCOBOL Studio (Eclipse 3.2 基盤)に加え、NetCOBOL Studio (Eclipse 3.4基盤)を提供します(注1)。NetCOBOL Studio (Eclipse 3.4基盤)を使用すると、他のEclipse 3.4基盤製品(Interstage Studioなど)と操作性などを合わせることができます。	NetCOBOL Studio 使用手引書
5	V10.2.0	FETCH NEXT/PRIOR文サポート	データベースアクセスでFETCH文に"NEXT"と"PRIOR"を指定できるようになりました。	COBOL文法書 • 8.6.4 FETCH文 NetCOBOL 使用手引書 • 18.2.4.5 FETCH PRIOR文によるデータの取得
6	V10.2.0	IBM DB2互換	SQLCAに含まれるSQLSTATE、SQLCODEおよびSQLERRDを翻訳できるようになりました。	COBOL文法書 • 8.2.4 SQLSTATE/SQLCODE • 8.2.6 SQLERRD

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
7	V10.2.0	ファイルの高速処理の一括指定サポート	レコード順・行順ファイルに有効となるファイルの高速処理(BSAM)機能を一括して指定できるようになりました。	NetCOBOL 使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> 6.7.4 ファイルの高速処理
8	V10.2.0	DISPLAY文のイベントログ出力サポート	DISPLAY文の出力先として、イベントログを指定できるようになりました。	NetCOBOL 使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> 9.1 小入出力機能 5.4.1.10 CBR_DISPLAY_CONSOLE_OUTPUT(DISPLAY UPON CONSOLEのイベントログ出力指定) 5.4.1.13 CBR_DISPLAY_SYSERR_OUTPUT(DISPLAY UPON SYSERRのイベントログ出力指定) 5.4.1.16 CBR_DISPLAY_SYSOUT_OUTPUT(DISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力指定) 5.4.1.8 CBR_DISPLAY_CONSOLE_EVENTLOG_LEVEL(DISPLAY UPON CONSOLEのイベントログ出力時のイベント種類指定) 5.4.1.11 CBR_DISPLAY_SYSERR_EVENTLOG_LEVEL(DISPLAY UPON SYSERRのイベントログ出力時のイベント種類指定) 5.4.1.14 CBR_DISPLAY_SYSOUT_EVENTLOG_LEVEL(DISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力時のイベント種類指定) 5.4.1.9 @CBR_DISPLAY_CONSOLE_EVENTLOG_SRCNAME(DISPLAY UPON CONSOLEのイベントログ出力時のイベントソース名指定) 5.4.1.12 @CBR_DISPLAY_SYSERR_EVENTLOG_SRCNAME(DISPLAY UPON SYSERRのイベントログ出力時のイベントソース名指定) 5.4.1.15 @CBR_DISPLAY_SYSOUT_EVENTLOG_SRCNAME(DISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力時のイベントソース名指定)
9	V10.2.0	CHECK機能抑止の実行時オプションサポート	CHECK機能を抑止する下記の実行時オプションをサポートしました。 <ul style="list-style-type: none"> nocb :CHECK(BOUND) nocl :CHECK(ICONF) 	NetCOBOL 使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> 5.7 実行時オプションの指定形式

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
			<ul style="list-style-type: none"> • nocl :CHECK(LINKAGE) • nocn :CHECK(NUMERIC) • nocp :CHECK(PRM) 	
10	V10.2.0	TRACE機能抑止の実行時オプションサポート	TRACE機能を抑止する実行時オプション"nor"をサポートしました。	NetCOBOL 使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> • 5.7 実行時オプションの指定形式
11	V10.2.0	トレース情報ファイルのマルチプロセスサポート	トレース情報ファイルをプロセス毎に出力できるようになりました。	NetCOBOL 使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> • 17.3.2トレース情報
12	V10.2.0	診断機能によるアプリケーションエラーメッセージ出力サポート	アプリケーションエラーの発生によって診断機能が起動した場合、JMW0099I-Uのメッセージを出力するようになりました。これにより、アプリケーションエラーの発生を容易に認知できるようになりました。	メッセージ説明書 <ul style="list-style-type: none"> • 4章 診断機能のメッセージ
13	V10.2.0	DISPLAY文の機能名SYSERR抑止サポート	DISPLAY文の機能名SYSERRに対応付けた呼び名に対して、出力を抑止できるようになりました。	NetCOBOL 使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> • 5.4.1.54 @NoMessage(実行時メッセージおよびSYSERRの出力抑止指定)
14	V10.2.0	NetCOBOL Studio	オープンソースのGUI開発環境であるEclipseをベースとしたCOBOLプログラム開発環境を提供します。GUIによる64ビットCOBOLアプリケーションのローカル開発ができるようになりました。	NetCOBOL Studio使用手引書
15	V10.2.0	リモート開発	NetCOBOL Studioを使用して、Solaris、Linux(Itanium)、Linux(64)、Windows(Itanium)およびWindowsサーバで動作するCOBOLアプリケーションをリモート開発できるようになりました。 (注2)	NetCOBOL Studio使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> • 9章 リモート開発機能
16	V10.2.0	登録集デバッグ	NetCOBOL Studioで、登録集に対するデバッグ機能をサポートしました。	NetCOBOL Studio使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> • 7章 デバッグ機能
17	V10.2.0	スクリーン操作機能	スクリーン操作機能をサポートしました。	COBOL文法書 <ul style="list-style-type: none"> • 2.8 スクリーン操作機能 NetCOBOL使用手引書 <ul style="list-style-type: none"> • 23章 画面を使った入出力

注1:NetCOBOL V10.3.0 開発パッケージには、NetCOBOL Studio(Eclipse 3.2 基盤)とNetCOBOL Studio(Eclipse 3.4 基盤)を同梱しています。お客様の環境に応じてどちらかをインストールして使用してください。留意事項は、“NetCOBOL V10.3.0 ソフトウェア説明書”の“7.6 開発環境”を参照してください。

注2:Solaris、Linux(Itanium)、Linux(64)およびWindows(Itanium)は、それぞれ次の製品を指します。

- Solaris
 - Oracle Solaris 10
- Linux(Itanium)
 - Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 5(for Intel Itanium)

- Linux(64)
 - Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 5(for Intel64) 64bit
 - Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 6(for Intel64) 64bit
- Windows(Itanium)
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems
 - Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 for Itanium-Based Systems

1.2 MeFt

MeFtは、以下の製品に含まれています。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

追加機能はありません。

1.3 SIMPLIA/COBOL支援キット

SIMPLIA/COBOL支援キットは、以下の製品に含まれています。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

1.3.1 TF-MDPORT

表1.2 TF-MDPORTの追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V80L10 (V10.3.0)	全般	Windows 7での動作をサポートしました。	—
2	V80L10 (V10.3.0)	全般	GUIを使用した「ファイル形式変換と文字コード変換」に対応しました。環境設定もGUI上で行うことが可能になりました。	SIMPLIA/TF-MDPORT オンラインマニュアル <ul style="list-style-type: none"> • 使用方法 MDPORT変換指示
3	V80L10 (V10.3.0)	変換機能強化	Unicodeデータを、コード体系に依存した形で扱うことが可能になりました。	SIMPLIA/TF-MDPORT オンラインマニュアル <ul style="list-style-type: none"> • 画面説明 - MDPORT変換指示 - 環境設定
4	V80L10 (V10.3.0)	変換機能強化	ASCII系タブコードとEBCDIC系タブコードの変換が可能になりました。	—
5	V80L10 (V10.3.0)	変換機能強化	CSV出力で符号あり数値文字列項目に+符号の出力選択が可能になりました。	SIMPLIA/TF-MDPORT オンラインマニュアル <ul style="list-style-type: none"> • MDPORT変換指示ウィザード [CSV詳細設定] ダイアログボックス • MDPORTCコマンド

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
6	V80L10 (V10.3.0)	COBOLファイル 対応	COBOLファイル形式の変換に対応しました。	SIMPLIA/TF-MDPORT オンラインマニュアル ・ MDPORT変換指示ウィザード 3・4/5 (入出力ファイル情報)
7	V80L10 (V10.3.0)	Interstage Charset Manager 対応	Interstage Charset Managerを使用したコード変換に対応しました。	SIMPLIA/TF-MDPORT オンラインマニュアル ・ MDPORT変換指示ウィザード 5/5 (変換仕様・エラー情報)

注: ()内のバージョンはNetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.3.2 TF-LINDA

表1.3 TF-LINDAの追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V70L10 (V10.3.0)	全般	Windows 7での動作をサポートしました。	—
2	V70L10 (V10.3.0)	サポートファイル 形式	行順／索引／相対編成ファイルをサポートしました。	—
3	V70L10 (V10.3.0)	MDPORT連携	MDPORT連携をサポートしました。	—
4	V70L10 (V10.3.0)	ホストデータ変換	ホストデータ変換ツールが利用出来るようになりました。	—
5	V70L10 (V10.3.0)	レコード形式画面 ／一覧形式画面	Unicode 文字によるデータの入力をサポートしました。	—
6	V70L10 (V10.3.0)	レコード形式画面 ／一覧形式画面	JEF 拡張漢字、JEF 拡張非漢字、利用者定義文字の表示と入力をサポートしました。	—
7	V70L10 (V10.3.0)	Unicode 編集ダイアログボックス レコード形式画面 ／一覧形式画面	印刷時のユーザ指定フォントの保存をサポートしました。	—
8	V70L10 (V10.3.0)	データ変換処理	利用者定義変換テーブルを用いたデータの変換処理をサポートしました。	SIMPLIA/TF-LINDAオンラインマニュアル ・ 使用方法 利用者定義変換テーブル

注: ()内のバージョンはNetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.4 PowerSORT

PowerSORTは、以下の製品に含まれています。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- ・ NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

PowerSORTの追加機能の情報は、“PowerSORT ユーザーズガイド”を参照してください。

1.5 Jアダプタクラスジェネレータ

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

表1.4 Jアダプタクラスジェネレータの追加機能概要

項番	V/L(*)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V10.0.0 (V10.2.0)	Jアダプタクラス 生成および運用 環境	Javaクラスを呼び出すCOBOLクラス(Jアダプタクラス) を生成するツールおよびJアダプタクラスの実行環境を 提供します。	Jアダプタクラスジェネレータ 使用手引書

*:()内のバージョンは、NetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.6 FORM

FORMは、以下の製品に含まれています。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ

FORMの追加機能の情報は、“FORM 説明書”を参照してください。

1.7 MeFt/Web

NetCOBOL V10.3.0 から、MeFt/Webを提供します。

MeFt/Webは、以下の製品に含まれています。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

第2章 互換に関する情報

ここでは、以前のバージョン・レベルから変更された互換に関する情報を記載します。

2.1 NetCOBOL開発環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ

2.1.1 SQLCODE、SQLMSGおよびSQLERRDの定義場所

変更内容

SQL文の実行時情報を格納するSQLCODE、SQLMSG、およびSQLERRDの定義場所の扱いが変更になりました。

V10.1.0

SQL宣言節外で定義されたSQLCODE、SQLERRD、またはSQLMSGには、SQL文の実行時情報を格納しません。

V10.2.0以降

SQL宣言節外で定義されたSQLCODE、SQLERRD、またはSQLMSGに、SQL文の実行時情報を格納します。

影響

以下の条件の場合、V10.1.0以前ではSQLCODE、SQLERRDまたはSQLMSGにSQL文の実行時情報は格納されませんでした。V10.2.0以降ではSQL文の実行時情報が格納されるようになりました。

そのため、上記3つのデータをSQL文の実行時情報を得る目的以外で使用していた場合は、実行結果が異なる場合があります。

ただし、本影響があるのはV10.2.0以降で再翻訳した場合に限ります。

1. SQL宣言節内にSQLSTATEが構文規則どおりに定義されている。かつ、
2. SQL宣言節外にSQLCODE、SQLERRDまたはSQLMSGが構文規則どおりに定義されている。かつ、
3. SQL文が実行される。かつ、
4. 手続き部でSQLCODE、SQLERRDまたはSQLMSGが参照される。かつ、
5. 1.~4.が同一翻訳単位内に記述されている。

対処方法

SQL宣言節外に定義されたSQLCODE、SQLMSG、またはSQLERRDの名前を変更してください。

2.1.2 規定外の外部10進項目同士の加減算の演算結果について

変更内容

以下の条件を満たす算術文がある場合、V10.1.0とV10.2.0以降で演算結果が異なります。

1. 加算または減算の二項演算の算術文である。かつ、
2. 結果の一意名の数は、1つのみである。かつ、
3. [NOT] ON SIZE ERRORの指定がない。かつ、
4. ROUNDED指定がない。かつ、
5. 2つの作用対象のいずれもが、全桁数が16桁から18桁の外部10進項目である。かつ、

- 6. 二項演算の中間結果(注)の精度が17桁から19桁である。かつ、
- 7. 2つの作用対象のいずれかの内部表現が外部10進項目として誤っている。

注：中間結果の精度については、“COBOL文法書”の“D.2 四則演算の中間結果”を参照してください。

例

```

WORKING-STORAGE SECTION.
01 DATA-ZONE1 PIC S9(18).
01 DATA-ZONE2 PIC S9(18).
01 DATA-2 REDEFINES DATA-ZONE2 PIC X(18).
01 DATA-ZONE3 PIC S9(18).
01 DATA-3 REDEFINES DATA-ZONE3 PIC X(18).

PROCEDURE DIVISION.
MOVE X"FFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFF" TO DATA-2 DATA-3 . . . ア
COMPUTE DATA-ZONE1 = DATA-ZONE2 + DATA-ZONE3
DISPLAY DATA-ZONE1

```

上記のプログラムでは、外部10進項目に英数字項目の記憶領域を割り当てます。'ア'の転記を実行すると、DATA-ZONE2とDATA-ZONE3には外部10進項目として誤った内部表現(0xFFFF...FFFF)が設定されます。

- ・ V10.1.0の結果

```
+3333333333333333330
```

- ・ V10.2.0以降の結果

```
+545555555455555554
```

対処方法

外部10進項目として誤った内部表現が設定されている作用対象を含む算術文の結果は規定されていません。誤った内部表現を設定している箇所を修正してください。

外部10進項目の正しい内部表現の概要は次の通りです。

データ項目	ゾーン部	数字部	符号部
外部10進(SEPARATEあり)	3	0~9	2B,2D
外部10進(SEPARATEなし)	3		4,5

参照

“COBOL文法書”の“5.4.15 USAGE句”

“NetCOBOL使用手引書”の“L.2 数字項目の標準規則”

2.1.3 障害修正に関する互換情報について

ここでは、NetCOBOL開発環境について、NetCOBOL V10.2.0以降で修正された障害により動作が変わるものを、以下の表で説明します。

表2.1 NetCOBOL開発環境の障害修正に関する互換情報

項番	VL(注)	P番号	変更内容
1	V10.1.0	PG77383	以下の条件の場合、実行時に、正しい結果が得られないことがある問題を修正しました。 1. 翻訳オプションOPTIMIZEが有効である。(*1)かつ、

項番	VL(注)	P番号	変更内容																																				
			<p>2. 内部10進項目を数字編集項目へ設定している文を記述している。かつ、</p> <p>3. 内部10進項目と数字編集項目のけた数は、「整数部のけた数が同じ、かつ、小数部がない」である。かつ、</p> <p>4. 数字編集項目は、編集方法にゼロ抑制のみを指定している(PICTUREの文字列には'9','Z','*'のみを使用している)。かつ、</p> <p>5. 2.の文の前に、データ項目(または中間結果)を2.の内部10進項目へ設定する文(*2)を記述している。かつ、</p> <p>6. 5.のデータ項目(または中間結果)のけた数と2.の内部10進項目のけた数の関係が次のようになっている。かつ、</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="border: none;">-----</th> <th style="border: none;">データ項目 (または中間結果)</th> <th style="border: none;">内部10進項目</th> <th style="border: none;">-----</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: none;">2</td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;">3</td> <td style="border: none;"></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">4</td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;">5</td> <td style="border: none;"></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">6</td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;">7</td> <td style="border: none;"></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">8</td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;">9</td> <td style="border: none;"></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">10</td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;">11</td> <td style="border: none;"></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">12</td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;">13</td> <td style="border: none;"></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">14</td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;">15</td> <td style="border: none;"></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">16</td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;">17</td> <td style="border: none;"></td> </tr> </tbody> </table> <p>7. 5.のデータ項目(または中間結果)と2.の内部10進項目の両方に小数部がない。</p> <p>*1:デフォルトの翻訳オプションはNOOPTIMIZEです。</p> <p>*2:数字転記はMOVE文だけでなく、COMPUTE文などの暗黙に転記が発生する場合も該当します。</p>	-----	データ項目 (または中間結果)	内部10進項目	-----	2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		13		14		15		16		17	
-----	データ項目 (または中間結果)	内部10進項目	-----																																				
2		3																																					
4		5																																					
6		7																																					
8		9																																					
10		11																																					
12		13																																					
14		15																																					
16		17																																					
2	V10.1.0	PG78440	<p>以下の条件の場合、実行時に、正しい結果が得られないことがある問題を修正しました。</p> <p>1. 翻訳オプションBINARY(BYTE)またはBINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ、</p> <p>2. 以下の組み込み関数が存在する。かつ、</p> <p>[A]</p> <ul style="list-style-type: none"> — FUNCTION MAX — FUNCTION MIN — FUNCTION MEAN — FUNCTION MEDIAN — FUNCTION RANGE <p>[B]</p> <ul style="list-style-type: none"> — FUNCTION ANNUITY — FUNCTION NUMVAL — FUNCTION NUMVAL-C — FUNCTION RANDOM <p>3. 2.の関数の引数が、全て9桁以下の固定小数点数字である。かつ、</p> <p>4. 2.の関数が[A]の場合、引数が4つ以上指定されている。</p>																																				

注:VLは、障害が存在する範囲を示します。

2.2 NetCOBOL運用環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Base Edition サーバ運用パッケージ

2.2.1 障害修正に関する互換情報について

ここでは、NetCOBOL運用環境について、NetCOBOL V10.2.0以降で修正された障害により動作が変わるものを、以下の表で説明します。

表2.2 NetCOBOL運用環境の障害修正に関する互換情報

項番	VL(注)	P番号	変更内容
1	V10.1.0	PG77099	<p>以下の条件の場合、実行環境変数@CBR_SSIN_FILE=THREADが有効にならず、ACCEPT文のファイル入力で、プロセスで1つの入力ファイルが共有される問題を修正しました。(*)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マルチスレッドで動作するアプリケーションである。かつ、 2. 実行環境変数@CBR_SSIN_FILE=THREADを指定している。かつ、 3. ACCEPT文を実行しファイルからデータを入力した。 <p>*:実行環境変数@CBR_SSIN_FILE=THREADを指定した場合、ACCEPT文のファイル入力で、スレッド単位に入力ファイルをオープンすることができます。</p>
2	V10.1.0	PG73346	<p>以下の条件の場合、実行時に、実行時メッセージJMP0320I-I/Uに埋め込まれる8桁の16進文字の下位4桁に不要なゼロ列が設定される問題を修正しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. COBOLファイルシステム(*)を使用したファイル操作を行っている。かつ、 2. 以下のいずれかの入出力文を実行している。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> — READ文 — WRITE文 — REWRITE文 — DELETE文 — START文 3. 2の入出力文の実行が失敗した。 <p>*:ファイルの高速処理(BSAM)を指定している場合、該当しません。</p>
3	V10.1.0	PG79852	<p>以下の条件の場合、COBOLアプリケーションの実行中にアプリケーションエラーまたは実行時メッセージが発生した時、診断機能において、診断レポートを出力する前に以下の予期せぬメッセージが出力される問題を修正しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ドライブにディスクがありません。ディスクをドライブに挿入してください。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境変数@CBR_JUSTINTIME_DEBUG=NOが設定されていない。かつ、 2. 診断対象であるプロセスで動作するロードモジュールにデバッグ情報ファイル(PDBファイル)(*)を作成しているものがある。かつ、

項番	VL(注)	P番号	変更内容
			<p>3. 2.で示したロードモジュールの格納されたフォルダに2.で示したデバッグ情報ファイルが存在しない。かつ、</p> <p>4. NetCOBOLを使用しているシステムにおいて、仮想CDドライブのマウント解除などにより、現在は参照できない状態のドライブがある。かつ、</p> <p>5. 2.で示したデバッグ情報ファイルを作成したドライブと、4.で示した参照できない状態のドライブのドライブ文字が一致している。</p> <p>*:デバッグ情報ファイル(PDBファイル)は、リンクコマンドにリンクオプション"/DEBUG"を指定した場合に作成されます。</p>
4	V10.1.0	PG79859	<p>以下の条件の場合、NetCOBOL Studioのリモートデバッグ機能を使用してCOBOLアプリケーションをデバッグした時、デバッグ中に以下の予期せぬメッセージが出力される問題を修正しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ドライブにディスクがありません。ディスクをドライブに挿入してください。</p> </div> <p>1. NetCOBOL Studioのリモートデバッグ機能でCOBOLアプリケーションをデバッグしている。かつ、</p> <p>2. デバッグ対象プロセスで動作するロードモジュールにデバッグ情報ファイル(PDBファイル)(*)を作成しているものがある。かつ、</p> <p>3. 2.で示したロードモジュールの格納されたフォルダに2.で示したデバッグ情報ファイルが存在しない。かつ、</p> <p>4. NetCOBOLを使用しているシステムにおいて、仮想CDドライブのマウント解除などにより、現在は参照できない状態のドライブがある。かつ、</p> <p>5. 2.で示したデバッグ情報ファイルを作成したドライブと、4.で示した参照できない状態のドライブのドライブ文字が一致している。</p> <p>*:デバッグ情報ファイル(PDBファイル)は、リンクコマンドにリンクオプション"/DEBUG"を指定した場合に作成されます。</p>

注:VLは、障害が存在する範囲を示します。

2.3 MeFt

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

2.3.1 移行時の注意事項

ここでは、32ビット版およびItanium 64ビット版のMeFtから、本版製品へ移行した際の注意事項について記載します。

帳票資産の互換性

32ビット版およびItanium 64ビット版のMeFtで使用していた帳票資産(画面帳票定義体、帳票定義体、オーバレイ定義体)には互換がありそのまま使用できますが、OSおよびプリンタ環境の違いにより、出力結果については微妙に異なる場合があります。

環境変数

32ビット版およびItanium 64ビット版のMeFtのインストール時に設定していた以下の環境変数については、本製品では設定を行いません。

- LIB (ライブラリの格納フォルダ)

— INCLUDE(インクルードの格納フォルダ)

C言語での利用者プログラムの開発時には、ソリューションのプロパティで以下の格納フォルダを指定してください。

— ライブラリの格納フォルダ:製品のインストールフォルダ¥Lib

— インクルードの格納フォルダ:製品のインストールフォルダ¥Include

2.3.2 制限事項

Windows(x64)版の本製品では、以下の機能は未サポートです。

文字コード

文字コードとして、EBCDICおよびJEFは使用できません。使用した場合は、MEFD_RC_OPMDA(44)のエラーとなります。また、関連する以下のキーワードは無効となります。

JEFEXTN (JEF拡張漢字サポートの有無)
EUCGAJI (外字複写元位置)
JISTYPE (JIS年式指定)
ASPEBCCONV (ASP互換用コード変換ルーチン使用指定)

画面機能

画面機能はすべて使用することができません。使用した場合は、MEFD_RC_OPEN(10)エラーとなります。

印刷機能

— DDOVL (機種依存オーバーレイ使用指定)は使用することができません。指定した場合は、MEFP_DDOVLLD(9E)のエラーとなります。

— 画像ファイルの印刷 (OLEの印刷)

画像ファイルの印刷を行う場合、OLEは印刷できません。OLEの印刷を行った場合は、MEFD_RC_OLELOAD(9A)のエラーとなります。

— 多目的プリンタ機能

多目的プリンタ機能は使用できません。使用した場合は、MEFP_RC_IMLOAD(9B)のエラーとなります。また、関連するプリンタ情報ファイルの以下のキーワードは無効となります。

PRTACS (印刷形態)
UPSIZE (上端寸法)
UNLOAD (排出口指定)

— 帳票の電子化

帳票の電子化は行えません。使用した場合は、MEFP_RC_STREAMLOAD(9H)のエラーとなります。また、関連するプリンタ情報ファイルの以下のキーワードは無効となります。

STREAM (ストリーム種別指定)
STREAMENV (管理情報ファイル名指定)
STREAMFILE (ストリーム出力ファイル名指定)

— XML入出力処理

XMLでの入出力は行えません。使用した場合は、MEFP_RC_STREAMLOAD(9H)のエラーとなります。また、関連するプリンタ情報ファイルの以下のキーワードは無効となります。

STREAM (ストリーム種別指定)
STREAMFILE (ストリーム出力ファイル名指定)

他システムとの連携

- MeFt/NETとの連携は行えません。
- MeFt/Webとの連携は行えません。
- リモート表示ファイルサービスとの連携は行えません。

プログラムインタフェース

- Visual Basic
プログラムインタフェースとしてVisual Basicは利用できません。
- アプリケーションの起動 (ps_exec)
アプリケーションの起動 (ps_exec) インタフェースは利用できません。

2.3.3 障害修正に関する互換情報について

ここでは、MeFtについて、NetCOBOL V10.2.0以降で修正された障害により動作が変わるものを、以下の表で説明します。

MeFtの障害修正に関する互換情報

項番	V/L(注)	P番号	変更内容
1	V10.1.0	PG78188	<p>以下の条件の時、フリーフレーム形式の帳票定義体で用紙の改ページ後、帳票定義体を切り替えて出力を行うと、不要なメッセージウィンドウが表示される問題を修正しました。</p> <ol style="list-style-type: none">1. フリーフレーム形式の帳票定義体を使用する。かつ、2. フレームの縦位置が0以外である。かつ、3. フレームに含まれるパーティションを出力する。かつ、4. “用紙の改ページ”を指定してプリンタ装置の制御を呼び出す。または、“出力して改ページ”を指定してパーティション出力を呼び出す。または、最終リンクフレームで“改フレーム”を指定して出力する。かつ、5. 帳票定義体を切り替えて出力を行う。かつ、6. 印刷プレビューを行った。 <p>なお、修正前の動作に戻す場合、環境変数“MEFTFRAMEPGSKIP”に“C”を指定してください。</p> <p>例) バッチファイルで、環境変数"MEFTFRAMEPGSKIP"に値"C"を設定する場合 set MEFTFRAMEPGSKIP=C</p>
2	V10.1.0	PG77027	<p>[変更内容1]</p> <p>以下の条件の時、本来、次行に送り出されるべきでない文字列が次行に送り出される問題を修正しました。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 矩形混在項目または矩形英数字項目のプロパティで「句読点のぶら下げ」または「行頭／行末禁則」のいずれかをONにした。かつ、2. 「ワードラップ」をONにした。かつ、3. 項目内のいずれかの行の末尾が空白である。かつ、4. 3.の行末尾の空白の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の文字が2個以上連続している。かつ、5. 4.の文字列の直前が空白文字である。かつ、6. 5.の空白の前に空白以外の文字が存在する。 <p>[変更内容2]</p> <p>以下の条件の時、本来、複数行に分割されるべきでない文字列が分割される問題を修正しました。</p>

項番	V/L(注)	P番号	変更内容
			<ol style="list-style-type: none"> 1. 矩形混在項目または矩形英数字項目のプロパティで「行頭／行末禁則」をONにし「行頭および行末」または「行末のみ」を指定した。かつ、 2. 「ワードラップ」をONにした。かつ、 3. 項目内のいずれかの行でワードラップや行頭・行末禁則による追い出しが発生した。かつ、 4. 3.の追い出しを行ったあと、行末尾が空白となる。かつ、 5. 4.の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の行末禁則文字である。かつ、 6. 5.の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の文字である。かつ、 7. 6.の文字列の直前が空白である。かつ、 8. 7.の空白の前に空白以外の文字が存在する。 <p>[備考]</p> <p>変更内容2については、実行時に、以下の環境変数を指定することで修正が有効となります。</p> <p>環境変数:MEFTWRAPCONTROL 設定値:2</p> <p>例) バッチファイルで、環境変数"MEFTWRAPCONTROL"に値"2"を設定する場合 set MEFTWRAPCONTROL=2</p>

注:V/Lは、障害が存在する範囲を示します。

2.4 SIMPLIA/COBOL支援キット

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

互換に関する情報はありません。

2.5 PowerSORT

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

PowerSORTの互換に関する情報は、“PowerSORT ユーザーズガイド”を参照してください。

2.6 Jアダプタクラスジェネレータ

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

互換に関する情報はありません。

2.7 FORM

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ

FORMの互換に関する情報は、“FORM 説明書”を参照してください。

2.8 MeFt/Web

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

互換に関する情報はありません。

第3章 プログラム修正一覧

ここでは、本バージョン・レベルで修正された障害修正の情報を説明します。

3.1 NetCOBOL開発環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ

表3.1 NetCOBOL開発環境のプログラム修正一覧

項番	V/L(注)	P番号	現象
1	V10.1.0 ～ V10.2.0	PG83344	以下の条件の場合、INSDBINFコマンドが異常終了する、または、INSDBINFコマンドが出力したCOBOLプログラムの翻訳が正しく行われないことがあります。 1. Pro*COBOLを使用している。かつ、 2. COBOLプログラムソースの文字コードがUTF-8である。かつ、 3. ソース中に日本語文字(3バイト文字)を記述している。
2	V10.1.0 ～ V10.2.0	PG63102	以下の条件の場合、NetCOBOL Studioでのリモート開発時、「ファイル"{0}"のパスに誤りがあるため、オープンできません。」のエラーが表示されてメイクファイル生成に失敗する場合があります。また、メイクファイル生成に失敗した場合サーバ上には作業ディレクトリとして指定したディレクトリ名を途中まで含んだディレクトリが生成される場合があります。 1. リモート開発で[リモート開発機能を有効にする]チェックボックスをチェックし、Windows(x64)として登録したサーバ名を指定している。かつ、 2. サーバディレクトリにサーバ上に存在しない日本語(2バイトコード)で終了するディレクトリ名を指定している。かつ、 3. リモート開発でメイクファイル生成を実行する。
3	V10.2.0	PG64947	以下の条件の場合、NetCOBOL Studioでのリモート開発時、リモートサーバへの接続に失敗します。 1. クライアント(Windows)のログインIDに、リモートサーバのシェルで特殊文字として取り扱われる文字を含むIDを指定して、クライアントにログインした。かつ、 2. クライアントのNetCOBOL Studioを起動し、リモート開発機能に関する以下のいずれかの操作を行った。 ー プロジェクトの[プロパティ]-[リモート開発]で[参照]ボタンをクリックした。 ー プロジェクトの[リモート開発]-[メイクファイル生成]を実行した。
4	V10.2.0	PG70814	以下の環境および条件の場合、NetCOBOL Studioでのリモートデバッグ時、任意のデータをウォッチビューで監視していると、“<値の検索でエラーが発生しました>”のメッセージが表示されます。 [環境] 1. Windows版 NetCOBOL 開発パッケージがクライアントにインストールされている。かつ、 2. サーバのOSがWindows Server 2008 R2である。かつ、 3. Windows(x64)版 NetCOBOL 開発パッケージがサーバにインストールされている。かつ、

項番	V/L(注)	P番号	現象
			<p>4. リモート開発のためのサーバ設定を行っている。</p> <p>[発生条件]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NetCOBOL Studioで、Windows Server 2008 R2をリモートサーバとして、リモートデバッグを行った。かつ、 2. ウォッチビューに任意のデータ項目を追加した。かつ、 3. [実行]メニュー>[再開] (またはF8キー)で無条件実行させて、被デバッグプログラムの実行を最後まで行った。
5	V10.2.0	PG84741	<p>以下の条件の場合、NetCOBOL Studioで、ユーザが設定したプリコンパイラ連携情報またはリソースコンパイラオプションがCOBOLプロジェクトの設定値として保存されません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NetCOBOL StudioでCOBOLプロジェクトのプロパティ画面を開き、以下のいずれかのページで設定値を変更した。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> － [ターゲット]ページ － [ビルド]-[翻訳オプション]ページ － [ビルド]-[登録集名]ページ － [ビルド]-[リンクオプション]ページ 2. 1.に示したページで設定値を変更した後、プロパティ画面の[OK]ボタンをクリックしていない。かつ、 3. 以下のいずれかのページに遷移し、設定値を変更した後、プロパティ画面の[OK]ボタンをクリックした。 <ul style="list-style-type: none"> － [ビルドツール]-[プリコンパイラ]ページ － [ビルドツール]-[リソースコンパイラ]ページ
6	V10.2.0	PG84745	<p>以下の[発生条件1]または[発生条件2]の場合、NetCOBOL Studioで、ローカルデバッグ後にリモートデバッグを行った、またはリモートデバッグ後にローカルデバッグを行った時に、ウォッチビューに追加されている日本語名のデータ項目の内容に対して「値を評価できません」が表示され、データ項目の値を参照できません。</p> <p>[環境]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows(x64)版のNetCOBOL 開発パッケージがインストールされている。かつ、 2. サーバにLinux(64)版、Linux(Itanium)版またはSolaris版のNetCOBOL 開発・運用パッケージがインストールされている。かつ、 3. リモート開発のためのサーバ設定を行っている。 <p>[発生条件1]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NetCOBOL Studioでローカルデバッグを行った。かつ、 2. NetCOBOL Studioを再起動せずに、リモートデバッグを行った。かつ、 3. 2.のリモートデバッグにおけるデバッグ操作で、日本語名のデータ項目をウォッチビューに追加している。 <p>[発生条件2]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NetCOBOL Studioでリモートデバッグを行った。かつ、 2. NetCOBOL Studioを再起動せずに、ローカルデバッグを行った。かつ、 3. 2.のローカルデバッグにおけるデバッグ操作で、日本語名のデータ項目をウォッチビューに追加している。

項番	V/L(注)	P番号	現象
7	V10.2.0	P84944	<p>以下の条件の場合、NetCOBOL Studioで実行用の初期化ファイル(COBOL85.CBR)を使用するダイナミックリンクライブラリをビルドすると、リンク時にリンカの警告メッセージ「xxxx : warning LNK4042: オブジェクトの指定が重複しています; 余分なものは無視されます」が表示されます。</p> <p>メッセージ本文中のxxxxには、ユーザが指定したDLLエントリオブジェクトの種類に対応するファイル名が埋め込まれます。</p> <p>不要な警告メッセージは表示されますが、目的とするダイナミックリンクライブラリは正しく生成されるため、ダイナミックリンクライブラリの実行への影響はありません。</p> <p>1. NetCOBOL Studioにおいて、プロジェクトのプロパティ画面の[ターゲット]ページで、以下の設定を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> — [ターゲット種別]で[ダイナミックリンクライブラリ]を選択した。かつ、 — [DLL固有の実行用の初期化ファイル(COBOL85.CBR)を使用する]のチェックを付けた。 <p>リンカの警告メッセージ「xxxx : warning LNK4042: オブジェクトの指定が重複しています; 余分なものは無視されます」に埋め込まれるオブジェクトファイル名は、プロジェクトのプロパティで指定したDLLエントリオブジェクトの種類によって、以下のように変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [DLLエントリオブジェクト]で[COBOL単体用]を選択した場合 <NetCOBOLのインストール先フォルダ名>¥F4AGCBDM.obj • [DLLエントリオブジェクト]で[他言語間結合用]を選択した場合 <NetCOBOLのインストール先フォルダ名>¥F4AGMLDM.obj

注: V/Lは障害が存在する範囲を示します。

3.2 NetCOBOL運用環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Base Edition サーバ運用パッケージ

表3.2 NetCOBOL運用環境のプログラム修正一覧

項番	V/L(注)	P番号	現象
1	V10.1.0 ～ V10.2.0	PG82410	<p>以下の環境および発生条件の場合、COBOLアプリケーション実行時、次に示す実行時メッセージが出力され、SORT文の実行が失敗することがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>JMP0601I-I/U SORTまたはMERGE文でエラーが発生しました。 CODE=208.</p> </div> <p>[環境]</p> <p>1. PowerSORTをインストールしていない。</p> <p>[発生条件]</p> <p>1. 環境変数BSORT_TMPDIRまたはTEMPに113バイト(*1)を超えるフォルダ名を指定している。かつ、</p>

項番	V/L(注)	P番号	現象
			<p>2. SORT文(*2)を実行した。</p> <p>*1:環境変数の指定値が¥マークで終わる場合は、これを除いた長さとなります。</p> <p>*2:入力となるファイルまたはレコードのサイズにより、現象が発生しない場合があります。</p>
2	V10.1.0 ～ V10.2.0	PG83883	<p>以下の条件の場合、COBOLファイルアクセスルーチン実行時、以下のエラーが発生し、ファイルのオープンに失敗することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エラー番号:FA_EFNAME(114) ・ 入出力状態:90 <p>1. COBOLファイルアクセスルーチンの入出力対象となるファイルが索引ファイルである。かつ、</p> <p>2. ファイルをオープンするAPI関数(*1)に対し、以下の指定を行っている。かつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> a. ファイル名を二重引用符で囲っている。かつ、 b. レコードキーリストにNULLポインタを指定(*2)している。 <p>3. ファイルをオープンするAPI関数を実行した。</p> <p>*1:対象となるAPI関数は以下です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ cobfa_open ・ cobfa_openW <p>*2:本指定により、既存のファイルの索引構成とレコード形式、レコード長を認識してファイルを開きます。</p>
3	V10.1.0 ～ V10.2.0	PG84084	<p>以下の条件の場合、COBOLプログラム実行時、下記のいずれかのメッセージが出力され、OPEN文の実行が失敗することがあります(*)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アクセス違反例外(EXCEPTION_ACCESS_VIOLATION) ・ JMP0311I-I/U 'INVALID PATH-NAME' ・ JMP0310I-I/U 'NON-FILE' <p>1. UNC指定のCOBOLファイルである。かつ、</p> <p>2. 1.に対するOPEN文を実行した。</p> <p>*:発生頻度はメモリの状態に依存します。</p>
4	V10.1.0 ～ V10.2.0	PG84545	<p>以下の条件の場合、COBOLファイルユーティリティの復旧機能の実行で、</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>システムエラーが発生しました。コード = 0x44</p> </div> <p>というメッセージが出力され、復旧処理が失敗することがあります。</p> <p>1. 以下のいずれかの索引ファイル復旧機能を使用する。かつ、</p> <ul style="list-style-type: none"> － COBOLファイルユーティリティの[復旧]コマンド － ファイル復旧コマンド(cobfrcov) － 索引ファイル復旧関数(CFURCOV) <p>2. 以下のいずれかにコンマ(,)を含むパス名を指定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> － 復旧できないレコードのデータを出力するファイル名(*) － 環境変数TMPまたはTEMPに指定した一時フォルダ名 <p>*:索引ファイル復旧関数(CFURCOV)で、コンマ(,)を含むファイル名を指定する場合、ファイル名全体を二重引用符で囲む必要があります。</p>

注:V/Lは障害が存在する範囲を示します。

3.3 MeFt

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

表3.3 MeFtのプログラム修正一覧

項番	V/L(注)	P番号	現象
1	V10.1.0 ～ V10.2.0	PG78188	<p>以下の条件の時、フリーフレーム形式の帳票定義体で用紙の改ページ後、帳票定義体を切り替えて出力を行うと、不要なメッセージウィンドウが表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フリーフレーム形式の帳票定義体を使用する。かつ、 2. フレームの縦位置が0以外である。かつ、 3. フレームに含まれるパーティションを出力する。かつ、 4. “用紙の改ページ”を指定してプリンタ装置の制御を呼び出す。または、“出力して改ページ”を指定してパーティション出力を呼び出す。または、最終リンクフレームで“改フレーム”を指定して出力する。かつ、 5. 帳票定義体を切り替えて出力を行う。かつ、 6. 印刷プレビューを行った。 <p>なお、修正前の動作に戻す場合、環境変数“MEFTFRAMEPGSKIP”に“C”を指定してください。</p> <p>例) バッチファイルで、環境変数"MEFTFRAMEPGSKIP"に値"C"を設定する場合 set MEFTFRAMEPGSKIP=C</p>
2	V10.1.0 ～ V10.2.0	PG78189	<p>以下の条件の時、帳票機能における1ジョブのログサイズの上限に達していないにもかかわらず、イベントログに警告が出力され、当該ジョブのログ出力が中止される場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. トレースログの格納場所(MEFTLOGROOT)が指定されている。かつ、 2. 組込みメディア、オーバレイ定義体、帳票定義体、プリンタ情報ファイルのいずれかのサイズが 1,048,576バイト以上である。かつ、 3. ファイルサイズに関して以下の計算式が成り立つ。 $(\text{バイト単位のファイルサイズ} \div 65,536 \text{の余り}) \div 1,024 \times 1,024 > 1 \text{ジョブ単位の最大ログサイズ (MEFTLOGSIZEP)}$
3	V10.1.0 ～ V10.2.0	PG84734	<p>以下の条件の時、印刷プレビュー表示画面からの印刷において、プログラムインタフェースで指定した情報が無効となり、パーティションや項目が出力されなかったり、エラーが通知されたりする場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1回の出力単位(ジョブ)で、以下のプログラムインタフェースの呼び出し回数の合算値が、65535を超える。かつ、 <ul style="list-style-type: none"> － 出力処理インタフェース － 行移動出力インタフェース － パーティション出力インタフェース － プリンタ装置の制御インタフェース

項番	V/L(注)	P番号	現象
			2. 印刷プレビューを行う。かつ、 3. プレビュー表示画面で“Print”ボタンを押下し印刷を行った。 メモリの状態にもよるため、上記条件を満たした場合でも、現象が発生しない場合もあります。

注: V/Lは障害が存在する範囲を示します。

3.4 SIMPLIA/COBOL支援キット

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

プログラム修正の情報はありません。

3.5 PowerSORT

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

PowerSORTのプログラム修正に関する情報は、“PowerSORT ユーザーズガイド”を参照してください。

3.6 Jアダプタクラスジェネレータ

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

プログラム修正の情報はありません。

3.7 FORM

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ

FORMのプログラム修正に関する情報は、“FORM 説明書”を参照してください。

3.8 MeFt/Web

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

プログラム修正の情報はありません。